

# οὐρανός

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

## Vol.9

FEBRUARY 2002

 東北学院大学 広報誌  
TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

ウーラノス

「(ウーラノス)」は、「天」を意味するギリシャ語です。イエス・キリストは「わたしは天と地の一切の権能を授かっている(マタイ28:18)」と語っています。この個所にも οὐρανός が用いられています。

## CONTENTS

■ 特集 NEW WAVE T.G.U

「東北学院大学の  
教養教育の問題と課題」

- 同窓生を訪ねて.....
- 学生たちは、今.....
- 協奏、そして共創へ.....
- 入学試験の実施状況.....
- 学長室より.....
- 大学院より.....
- 学部より.....
- 国際交流センターより.....
- 研究所・センターより.....
- 図書館より.....
- 就職部より.....
- 入試センターより.....

グローバル化やIT化の時代にあって、大学に託されている使命は、ますます重要になっております。破壊や混乱ではなく、開かれた世界の福祉と文化の進展に貢献したいと願っています。

# 『東北学院大学の 教養教育の問題と課題』



東北学院大学長 倉松 功

## 序

### 今日の日本の大学における culture(教養、文化、人間形成) の問題と課題

特に個の育成と中間社会の形成をめぐる

「広辞苑」は、教養について「単なる学殖・知識とは異なり、一定の文化理想を体得し、それによって個人が身につけた創造的な理解力や知識」と記しております。これは、culture、すなわち、教養、文化、人間形成をよく捉えた解釈であると言えます。要するに、教養は、文化的理想や価値観を持ち、また、それによって人柄・人間(人格)を形成する、という二つのことを意味しています。ところで、今日の日本の問題は、人格の尊厳と人権、人権の一つとしての結社の自由、すなわち、国家と個人の間にある社会の形成ということです。それは、大学の教養教育にも関わっています。いずれにせよ、個人の人間形成に関係する教養とは、どのような社会を形成するかということです。

このように、教養に関し二つの点を問題にするのは、これまでの日本の教養教育の歴史的反省を踏まえてのことです。教養は、何より個人的問題であり、個人文化と密接に結びついています。大正時代において、人間形成は、教養主義文化のように、家族制度や男女関係や社会システムの改革と結びつくものではありませんでした。今日、教養や人間形成における重要な要素の一つとして、基本的人権の思想があります。その中に含まれる結社の自由は、個人と国家の間に位置する教養であり、日本の大学の教養教育が関係している今日の課題でもあります。もちろん、そ

れが聖書の使信の射程内にある事柄、すなわち、倫理的価値観である限りにおいて、キリスト教教養の問題でもあるわけです。

他方、大学の最近の改革は、設置基準の大綱化前後において、どのように変化したでしょうか。大綱化は、専門教育あるいは教養教育の区別を廃止しました。また、大綱化によって、研究大学あるいは大学院大学、専門大学、教養大学という、大学の三類系化が一層推進されました。大学における役割・位置というものがこれまでと違った形で取り上げられるようになったのです。しかし、どのような類系の大学であっても、前述のように、教養というものが人間形成であるならば、大学の営みの中で、常に、教養は課題になってくるものです。

教養大学であれば、カリキュラムの中に教養や文化に必要な科目を設定することができますが、研究大学や大学院大学の場合は非常に難しいでしょう。しかし、人間形成と関係すると理解されるならば、さまざまな大学の営みの中で、また、個人的人格のふれあいの中で、それは可能であると言えます。そのように考えると、大学院大学や研究大学においても、教養教育あるいは教養が問われないことはないわけです。

また、実業専門大学における教育は、数年学んで数年しか使えないという知識や技術ではなく生涯にわたって長く広く応用するために、教養教育を必要としていると思います。

いずれにしても、事実上、大綱化によって、大学の教養教育は、カリキュラムにおける位置づけが難しくなっています。しかし教養が人

間形成である限り、それはおろそかにされるべきものではありません。

## 1 今日の学問、科学の問題と課題

今日の大学の学問や科学の性格上、計測可能性、機能性、効用性、有用性などは、重要な要素になっております。また、仮説合理性や包括性もあります。すなわち、包括性と完結性は世界観的な役割を果たしています。包括性から、イデオロギーや世界観が出てきます。あるいは、偏りや型破りを難しくしています。そのような実証性や仮説合理性や包括性は、いずれも、個性的あるいは全人的な教養を難しくしています。少なくとも、全人的教養や全人的cultureを促進するとは言えないでしょう。

IT教育の仮説合理性、すなわちヴァーチャルリアリティの問題があります。ヴァーチャルは、本来、実際に力を持つ実像を意味している言葉ですが、用語としての意味は、現実に存在しない、もしくは、力を発揮しない仮象のことで、まったく意味が混乱しています。実際には、仮象の世界であり、描象的な形では再現されない、決して現実に存在しないものであるにも関わらず、仮説合理性、リアリティを持っていると言葉の上で主張していることに問題があるように思います。

次に、「解釈の主観性、思弁の抽象性」の問題もあります。独自の仮説に基づく、独自の主観的解釈の必要性、これが学問の性質の一つです。その限界や相対性を認識す

る必要があると思います。

専門職業人の育成を目指す、専門性が高く実用的な学問・技術の修得を目標とした、特に、県公立の実業専門大学があります。しかし、実用性が高ければ高いほど、そして専門性が狭ければ狭いほど、大学で学んだ知識や技術の寿命は短いでしょう。大学での学びを短期間で終わらないために、また、社会に出て全体的な視野を持って総合職を務めこなすことができるために、専門基礎教育を含めて幅広く深い教養が必要です。そういう意味で、大学は、全体として教養大学の側面を持っており、また、持つべきではないでしょうか。

## 2 全人教育としての教養

人間の3区分 身体・心(精神・生命・魂)・霊性 と教養

教養教育の目的は、まさに教育そのものの目的です。すなわち、全人教育、個人の人間形成、特に人格の完成です。そこには、人間をどう捉えるかとの問題があります。ひとりの人間について言えば、人は、身体・心・霊性(body, soul, spirit)の3つの要素を持っていると言えます。

身体に対応する教養は体育(physical culture)です。今日、あまり、physical cultureという言葉は使わないように思いますが、少なくとも教養の問題を考える場合には重要です。それは、単に、体育の問題ではなく、人間一人ひとりの身体機能を十分に発達させる感性や知性と結びつく教養だからです。これに関しては、少し古い本ですが、『からだの意識』

という書物があります。

心(soul)は、psycheですから、理性や知性と言ってもいいでしょう。理性や知性と捉えると、動物との違いがはっきりしてきます。それに対し、心をanimaというようにラテン語で表現するならば、アニミズムと関連します。アニミズムにおいて、人間以外の生物が、理性や知性、つまりscience, reason, intelligenceなどをどれ程度持っているか、あるいは人間との区別がどこまであるか、人間と同じようにどこまで扱っていいかということについては、議論があります。梅原猛に代表される人たちは、animalはすべての生物や植物、無機物にも存在するというアニミズムを主張しています。キリスト教の考えとは全く異なるものです。

もう一つの人間の機能は、霊性(spirit)です。霊性の教育を公立学校でも行うのはヨーロッパでは普通ですが、日本ではなされていません。ただし、日本の私立学校は別です。超越者に関わる宗教のspiritは、身体性とも関連し、また、心(soul)、生命(psyche = anima)、魂(nous)の働きとも結びついていきます。すなわち、感性や知性、意志に深く関わりを持っています。倫理、道徳、芸術に決定的影響を与えていると言えるでしょう。とりわけ、キリスト教とヨーロッパ文化との関係は、この霊性(spirit)の働きなしに考えられません。そこで、その霊性が、人間形成である教養教育とどのように関わっているかが課題になります。それゆえ、本学では単なる人間の知恵(wisdom)の次元の宗教ではなく、霊性に関わる宗教を大切にするので、



『東北学院大学の  
教養教育の問題と課題』



3  
今日の日本における教養の  
問題と課題

第二次世界大戦後、1947(昭和22)年の教育基本法とその前年の日本国憲法において、人間の尊厳とそれに基づく人権が認められました。特に、教育基本法では人格の完成という表現さえ記されています。個人としての人間の形成や完成ということの前提には、人間の尊厳という価値観があり、それに基づいて人権が成立してきたのです。その文脈の中で個々の人間の人格の完成が初めて教育の目的として掲げられたのです。それゆえ、まさに、人間形成・教養が、教育基本法で謳う教育の目的そのものであるということになります。

しかし、大学の教養が、一般に、そのような目的を持つ人間形成、あるいは、個人の人格の完成として捉えられているでしょうか。大学教育の教科やカリキュラムには、それ自体、目的があります。しかし、カリキュラムの目的とともに同時に考えられなければならないのが人格の完成です。そこで、個としての人間形成についてももう一度取り上げてみる必要があります。なぜなら、個人としての賜物や資質や能力などの個性は、DNAが違うように、それぞれ異なるからです。各人は、その個性に対応した使命・課題・役割を持っています。そのように捉えて初めて個の完成という人間形成が明確になります。個の賜物が引き出され、それが自覚され、そしてその個の使命・課題に結びつくことが人間形成の中心になります。

低学年の頃から個性を引き出して伸ばす教育をしなければ、個性

の発見、個人の育成、自立、確立は難しいでしょう。まさにこの個の育成に重点があった自由七科の古典的意義があるといえます。幼稚園や小学校において個性を引き出して伸ばす教育は、日本では、欧米に比して驚くほど行われていません。教科書の指導要領が画一的であるだけでなく、授業運営自体も集団主義であり画一主義です。個人の選択による学びが初等教育でも重視されなければなりません。さらに重要なことは、道徳感覚の修得ではないでしょうか。それは、第一次集団、すなわち、幼稚園前の段階から、しつけとして家庭でなされなければなりません。教育というよりもしつけの問題、人類普遍の教えを説く戒律の問題です。そこには、それぞれの国の文化や普遍的宗教の担うべき役割があると思います。

4  
社会集団の形成(結社の自由)

ここで取り上げたいのは、自由なデモクラシー社会の形成に関し、今日の日本が直面している問題です。個々の形成と同時に、各社会集団の形成、すなわち結社の自由に関する問題です。私はそれを「日本の第三の開国」の問題と考えています。

(本誌9ページにそのことについて記しましたのでご覧ください。)

2001年度  
日本法哲学会  
学術大会・総会  
が本学土樋キャンパス  
で開催される

むすび  
教養・人間形成における受動性・他者性(宗教)の意味

最後に、人間形成としての教養には、自己形成、自己実現、能動性だけでなく、自分自身の能力や資質を越えるものに対する他者性、超越性、受動性のあることをも指摘したいと思います。例えば、それには、他者から与えられるもの、他からの刺激、インパクトなどがあります。両親からの遺伝、友人、クラスをはじめとして、様々な社会集団から受ける外発もあります。その中でも、特定の人(両親、男女の友人)から与えられる愛、友情、ゆるし、癒しなどは、強制できません。まさに受動的に与えられるものです。また、それらは、当人の期待どおりに与えられるとは限りません。なぜなら、それらは、明らかに、自分を越えるもの、自分の外にあるものだからです。すなわち、他者なるものと言ってよいでしょう。外から与えられるもの(受動的なもの)なのです。自分で自由に所有したり、獲得できるものではありません。しかし、そのような愛やゆるしや癒しが、人間形成にとってどれ程大切なものであるかは言うまでもありません。

今一つ、人間形成や教養のみならず、社会形成や共同体の生活にとって大切なことがあります。それは、他者から与えられる愛やゆるしや癒しに対応するもの、すなわち、こちらからの奉仕、犠牲です。一般にボランティア活動といわれているものもその一つです。自己犠牲や奉仕は、これからの高齢化社会において、ますます重要な教養や人間形成の要素となるのでは

ないでしょうか。そのような教養や人間形成を大学の教養の問題としてどのように受け止めるかについて考えることが大学にとっては大切な課題なのです。

私は、<自分を越える愛、ゆるし、癒し>や<奉仕、自己犠牲>と、本学の建学の精神や伝統との積極的な関わりについて考えています。本学は、建学の目的である学則第1条において記されているとおり、聖書やキリスト教文化、また、教養や人間形成における普遍性や力を、繰り返し認識し、確認しなければなりません。



昨年11月9日(金)10日(土)の両日、土樋キャンパス8号館を会場に「2001年度日本法哲学会学術大会・総会」が開かれました。9日午前の方科会では若手からの意欲的報告と熱心な議論が展開され、その後は今年のテーマ「情報社会の秩序問題」が論じられました。ネット社会は恐ろしいスピードで進展していますが、その法学的・哲学的省察はまだ十分ではありません。刺激的報告に触発され、活発でユーモアあふれる議論が仙台の秋を彩りました。





よどかわ なおみ  
淀川 直美 さん

1962年、宮城県石巻市生まれ  
東北学院大学文学部英文学科卒業後、ブルームスバーグ大学(米国・ペンシルバニア州)にて幼児教育科の修士号を取得。モンタナ大学(米国)で日本語講師をつとめながら同大学教育管理科博士号を取得。1994年AMDA(アムダ)のプロジェクトコーディネーターとして、旧ユーゴスラビア・クロアチア・リエカで難民救援活動を行う。帰国後、国際協力事業団(JICA)などの活動に携わりながら、宮城県を中心に旧ユーゴスラビア紛争についての講演や河北新報などにボランティアの体験を連載するなど、ボランティア活動の裾野を広げる活動を行う。1999年ユーゴスラビア・ベオグラードにて再び難民救援活動を行う。1997年より石巻専修大学国際交流室に勤務。日本クロアチア友好協会(仙台支部)会員。石巻在住。(著書『いきなり国際ボランティア -旧ユーゴスラビアを行く-』シーエムシー)の筆者紹介より)

E-mail yodokawa@isenshu-u.ac.jp

# ともに生きていこうという気持ち

～難民救援ボランティア活動を通して得たもの～

紛争中の旧ユーゴスラビア・リエカで、難民救援ボランティアとして活躍された、本学同窓生の淀川直美さんにお話をうかがいました。

旧ユーゴスラビア難民救援ボランティア活動に参加したきっかけは何ですか。

1993年秋にアメリカで開かれた難民援助に関わる国際会議に出席した際、たまたま隣に座ったのが日本の岡山に本部を置くNGOアジア医師連絡協議会(AMDA)の方で、そこで、「行って見ないか」と言われました。以前から難民救援に関わってみたいという思いもあり、これはいい機会だと思ひまして、即決でした。

そもそも難民救援に関わりたと思ったのはなぜですか。

中学生の頃、テレビでアジアの貧しい地域の映像を見たのです。そこで、ゴミ拾いをして食費を稼いでいる5才くらいの女の子が『大きくなったからお医者さんになって、私と同じような貧しい人々を救いたい。こんなゴミの山で臭いのきつい所にはお医者さんは来ないから、こういう所に慣れた子が医者さんになったほうがいい』と言ったのです。とても強烈な印象を受けました。世界には、このように暮らし、こんなことを感じている子どもがいるのだと。その時、私もいつか、こういう人たちと何かできればと。そんな思いも含めたさまざまなことを3日間の国際会議の間にNGOの方に話していたのかもしれませんが、だから声がかかったのでしょう。「とにかく行ってみよう」という感じでした。

現地到着後、新事務所の所長を任命され、最初はとまどわれたのではないですか。

とにかく新しい事務所は何もかも真っ白の状態。もちろん私はボランティア初心者ですから、リハーサルのない舞台上に立たされているようなものです。まず、呆然として、その後は怒りの方が強かったですね。「だまされた。もう帰る」という感じでした。それでも、備品を準備してもらったし、スタッフもいる。日本からはやるべきプロジェクトがFAXで次々に流れてくる。予算も「これだけ使いなさい」とくるわけです。もう、怒りを表現している暇はなかったです。

実際に難民救援ボランティアとして活動してみてどうでしたか。

ボランティアというと、単純作業と考える人が多いのですが、そんなに簡単なことではありませんでした。やはり関わる人材や活動の内容などさまざまなことが絡み合っ、「これだけの予算でこれだけのプロジェクト」ということになるわけですから、緻密に計算していかないと、すべてを無駄にしてしまう可能性もあるということを感じました。とにかく何もかもが初めての経験で、毎日が試行錯誤と自問自答の繰り返しでした。自分が抱いていた難民救援ボランティアのイメージは、泥にまみれて汗を流すといったものでしたので、ミシン教室や編み物教室の準備をしている状況にとまどいを感じたことは確かです。プロジェクトが立ち上がり、難民の皆さんが喜んでくださるのを見て、初めて意義があったのだと実感しました。それが繰り返されていくうちに、自信と自覚が、確信のようなものを得ていったのです。

難民の方々はどのようなときに生きる喜びを感じるのでしょうか

同じようにつらい目に遭った人同士が支え合ったり、世話をし合ったり...私にも何かできると思えること、他人に対して何かさせてもらおうと思えることは、喜びに変わるのだと感じました。ミシン教室や編み物教室の様子を見ていても、主体的に何かをすることで生きている証を得た方もいたようです。



この活動の中で、一番心に残っていることはどのようなことですか。

難民の方々、長い列を作って赤十字の配給物資を受け取りますが、そこで手に入れたコーヒーを惜しみなく入れてくれるのです。砂糖をたくさん入れて、「他人の私のために...」と思うと何度も胸が熱くなりました。また、編み物教室では、私の誕生日にセーターを編んでくれる方がいたのです。とてもうれしかったですね。

現在、難民救援ボランティアに関わる活動をなさっていますか。

石巻近辺の小学校などで講演をしています。また、小学生たちが絵を描いてむこうへ送ってくれたり、物資を送ってくれたりもしています。こちらの子どもたちもむこうの子どもたちから学ぶことも多いと思いますから、このように相互に交流することが大切だと思うのです。こういうことがきっかけで、将来ボランティア活動に参加する人が出てくることを期待しています。



これからボランティア活動をしたいという人たちにメッセージをお願いします。

こちらから何かをしてあげるといわず、お互いに生きていきたいと思います。この気持ちで活動していくのがいいのではないのでしょうか。むこうから頂くものは、思ったよりも大きいものかもしれません。



## 本学90周年記念館講演会 いきなり国際ボランティア ～難民救援に参加して～



12月6日の本学90周年記念館講演会では、淀川さんより「いきなり国際ボランティア～難民救援に参加して～」というタイトルで講演をいただき、200名を超える学生が参加しました。前半は、旧ユーゴスラビアでのボランティア活動内容がスライドで紹介され、後半はボランティア活動を通して感じたことなどが紹介されました。また、学生からも多くの質問があり、ボランティアに対する関心の高さが見られました。参加した学生はさまざまな思いを抱いたことでしょう。その思いを是非行動に移してほしいと思います。

Interview

## 学生たちは、今

### 「憧れの大学に入れた！」

安部 友美さん  
法学部法律学科1年  
明成高等学校卒業(宮城県)  
AO入試で合格し入学



#### - 東北学院大学に入学した理由は何ですか。また、法学部を選んだのはなぜですか。

中学生の時に合唱部に入っていて、東北学院大学の大学祭で歌ったことがあります。そのころから東北学院大学に憧れていて、高校生の時には進学相談会に5・6回も通いました。法学部を選んだのは、著作権に関する勉強をしたかったことと、少年法に興味があったからです。

#### - 東北学院大学泉キャンパスに通ってみての印象はどうか。

施設の面で言えば、何でも揃っていますので、とても快適です。私がよく利用するのはコンピュータ室で、インターネットの英語の掲示板やチャットで会話を楽しんでいます。また、私の周りには将来、裁判所などの法律に関わる仕事に就きたいというように、目標をはっきり持っている友人が多く、私もよい影響を受けています。

#### - これから大学で学びたいのはどのようなことですか。

将来、イベント関係か、著作権管理の仕事に就きたいと思っていますので、著作権についてしっかり学んでおきたいです。また、仕事上、海外とのやりとりもできるようになりたいので、英語をはじめとすることができるだけ多くの語学を習得したいです。TOEICにも挑戦しようと思っています。もちろん、法学部ですので、法学検定も受けるつもりです。

#### - これから東北学院大学へ入学を希望する受験生たちにアドバイスををお願いします。

大学には、しっかりとした目標を持って入るのが一番望ましいのですが、正直なところ、高校時代の私の周りを見ても、目標が定まっている人はあまりいませんでした。まだ、何も見えないうのが実際のところだと思うのです。

私の場合は、以前からこの東北学院大学に憧れていたということもありますが、とにかく、ここで決めたら、積極的に知ろうと思ったのです。何回も通った進学相談会では、もう聞くこともなくなり、法学部の先生にいろいろとアドバイスをしてもらっていました。入学前に法学部の先生のほとんどを知っていたくらいです。夏休みのオープンキャンパスは2年生の時から参加しました。

要するに、入学したい大学を好きになること。そこから一歩踏み出してみると、4年間が楽しく過ごせると思います。

## 秋季公開講演会を 開催

～ カウンセリング・センター ～

カウンセリング・センターでは、毎年秋に公開講演会を開催しています。本年度は、11月30日に大正大学人間学部臨床心理学専攻・助教授の日笠摩子氏を講師にお迎えして、「フォーカシング～自分らしさってどこにある～」という題でお話をいただきました。自分自身の体の感覚や気持ちの動きをよくあじわうことの大切さについての、実習を交えながらのわかりやすいお話しに、一般の方々も含めた多数の参加者が貴重な体験を共有することができました。



## 工学部に 「産学連携推進センター」 を設置

工学部での産学連携は、これまでの個々の教員の責任において行われてきましたが、最近、産学連携の業務が増し、更に官を含めた取り組みが活発化してきたことを受けて、平成13年10月1日より工学部に「産学連携推進センター」を設置し、活動を始めました。当面、宮城県の各種産学官交流大会に参加して、企業及び自治体との連携を強めるとともに、学生の工学教育を活性化するため、インターンシップを強力に推進することとしています。

野村グループによる  
提供講座がスタート

経済学部長 関谷 登

経済学部経済学科では、今年4月から野村グループ（野村證券並びにそのグループ企業）の提供により、直接金融時代の資本市場をテーマにした提供講座がスタートします。

この講座は、経済学科の専門科目として設けられている経済学特殊講義として開講され、野村グループ各社・各部門の第一線の役職員の方々によって講義が展開されます。

近年、金融・資本市場を取り巻く環境は大きく変化し、それが企業や家計の経済活動に大きな影響を与えていることは周知のとおりです。金融・資本市場の自由化・国際化への対応は、日本経済の将来を大きく左右するといっても過言ではありません。しかし、大学での講義はともすれば理論あるいは制度に偏りがちであり、“変化する現状”を的確に学生諸君に伝えるには必ずしも十分ではありません。今回のこの講義は、その点で大学の講義を補完するものとして、また経済学の中心概念である“市場”の作用を理解する上で大いに役立つと考えています。こうした講義を通して、学生諸君が経済学を学ぶことの意義を再発見してくれるのではないかと期待しています。

経済学特殊講義は、その一つの方針として、今日的なテーマ及び実務的・実践的な内容を予定していましたので、当講座の開講によりそうした趣旨に沿った講義を提供できると考えています。

今回のこの講座は、本学での民間企業による提供講座としては第一号ということになるわけですが、今後こうした形で大学と社会との交流が拡大することによって、学生諸君が社会・経済問題への関心と理解を深め、これまで以上に積極的に学問と研究に取り組み、ひいてはそれが大学の活性化につながるのではないかと期待しているところです。

## アジアの中の東北 日中共同研究

中国内モンゴル興隆溝遺跡の日中共同研究はじまる

文学部教授 佐川 正敏



写真1

興隆溝遺跡は北京の北東約800kmの赤峰市内にある、7000～8000年前頃の新石器時代興隆窪文化段階に属する集落遺跡です（写真1）。2年の準備段階を経て、2001年からその日中共同調査が始まりました。これは青森県などが組織する日中先史時代遺跡共同調査実行委員会と中国社会科学院考古研究所とが共同で2003年度まで行うものです。私もこの調査チームの一員で、本年度は本学文学研究科アジア文化史専攻の院生らも参加しました。

さて、遺跡は面積約50,000㎡で、竪穴住居の最上層の埋土である円形の黒色土が現地表面に点々と見られます。それによれば、竪穴住居は計145軒あり、3つのまとめり（東からA～C区）から構成されることが事前に判っていました。2001年度はA区の北部を発掘し、12軒の竪穴住居を発見しました。竪穴住居からは土器や石器のほか、日本では土壌が酸性のため残りにくいシカやイノシシを主体とする獣骨や貝が多数出土しました。また、イノシシとシカの頭骨だけをまとめて並べ、イノシシの額にはすべて孔をあけてその部分を焼くという特殊な行為をしていたものが見つかりまし

た（写真2）。中国北方では最初の発見で、何らかの祭祀をしていたことが考えられます。さらに、住居の床に墓を設けたものが複数見つかり、骨の保存も良好でした。これは興隆窪文化段階に特有な風習です。副葬品として供えた玉製の球状耳飾も大発見でした。これは中国最古の玉製品だからです。

今回発掘で掘り出した土はすべてふるいにかけ、また水洗選別もして、植物の種子を含む細かな遺物を見逃さないよう注意しましたし、日本の植物生態学者、植物遺伝学者も参加しました。中国北方における農耕の起源問題を解明するためです。今後、人類学者や年代測定学者も参加し、中国北方新石器時代人の起源問題や縄文人との関係を解明する予定です。この日中共同の学際的研究には既に内外の注目と期待が集まっています。

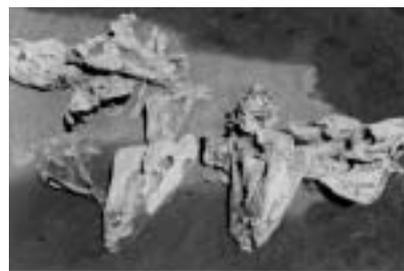


写真2

平成14年度入学者選抜のための  
各種推薦入試、社会人特別入試(A日程)、  
AO入試(A日程、B日程)が、  
昨年12月までに終わりました。  
その結果は以下のとおりです。

#### 学業成績推薦

学業成績推薦は「指定校制」をとっており、本学が指定した高校から、指定された学科・専攻に推薦された方だけが受験できます。受験した方は、特別の事情のないかぎり合格となります。定員391名に対し、出願者は397名で、受験者は全員が合格しました。

#### 資格取得推薦(経営学科)

本学が指定した商業高校から推薦された、簿記の一定の資格を持った方だけが受験できます。今年は昼間主、夜間主あわせて23名の出願があり、全員が合格しました。

#### キリスト者推薦

プロテスタントだけでなく、カトリックの方でも出願できます。今年はお願者が3名で、3名とも合格しました。

#### スポーツ推薦

今年から、出願予定者に対しては原則として書類による予備審査を実施することとしました。スポーツ実績からみて合格の可能性の小さい方が出願して、不合格になるというケースを減らすためです。その結果、出願者は昨年より6名多い1138名で、入学後に活躍が期待される優秀な選手がほとんどを占め、119名が合格しました。

#### 社会人特別入試(A日程)

英文、経済、経営の3学科の夜間主コースで学ぶ、社会人のための特別入試です。今年のお願者は3学科あわせて16名で、全員が合格しました。この試験を優秀な成績で合格した方には、給付奨学金が支給されます(ただし事前の申込みが必要です)。この社会人特別入試は、3月6日にB日程としてもう一度行われます。

#### AO入試(A日程、B日程)

面接と小論文を中心とする新しいスタイルの入試で、3年目を迎えました。今年はお日程で865名、B日程では98名の出願がありました。第一次選抜(書類審査と面接)と第二次選抜(小論文・小テストと短い面接)によって、357名(A日程313名、B日程44名)が合格となりました。

#### TG推薦

東北学院高等学校と東北学院榴ヶ岡高等学校からの推薦入試です。東北学院高等学校からは110名、東北学院榴ヶ岡高等学校からは90名の出願があり、全員が合格しました。

## COLUMN WELL

### ホームカミングデー (同窓祭) を開催

昨年10月13日(土)に、本学の同窓生を大学に招待し、同窓生相互の親睦や現役学生との交流、また同窓生と大学の絆を深めていただくために、第2回目となる平成13年度ホームカミングデー(同窓祭)を開催しました。

当日は、300名を超える同窓生の参加があり、本学名誉教授の西山良雄先生の特別講演や本学オルガニストによるパイプオルガンコンサート、昼食会(写真:シンフォニック・ウィンド・アンサンブルO・B・O・Gの「モッシー・ジャズオーケストラ」による演奏風景)また同日開催の大学祭などを通して、懐かしい当時の学生時代を振り返っていただくことができました。



### TGウェルカム レクチャーズ、 2年目を迎える

東北学院高等学校と東北学院榴ヶ岡高等学校からの推薦入試(TG推薦)による合格者を対象に、「TGウェルカムレクチャーズ」が、本年度も12月13日から1月31日まで、おおよそ週1回のペースで6回行われました。

文・経済・法・教養の4学部合格者に対しては、土樋キャンパスにおいて、法学部の斎藤誠教授が「論理力の向上」と「文章の書き方」というテーマで講義を行いました。また、工学部の合格者に対しては、多賀城キャンパスにおいて、機械工学科の遠藤春男教授と土木工学科の遠藤孝夫教授が、「力持ちの材料の話」や「エネルギーと環境問題」などのテーマで計6回の講義を行いました。

このような試みは、最近注目を集めている高校と大学の教育的連携(高連携)を図るものであり、東北学院の一貫教育のメリットを生かす場として、来年以降も積極的に推進されることが期待されています。

## 第三の開国

学長 倉松 功

今日の日本は第三の開国の時代といわれます。評論家の石川好氏、自民党の指導者たちは第三の開国を自民党一党支配や55年体制、あるいは官体制の改革と考えていました。新しい技術革新を主張している自然科学者もいます。私はそれらとは全く次元の異なることを考えています。

第一の開国は言うまでもなく、黒船到来による開国、日本の世界に向けての近代化の開始です。この日本の第一の開国を教育・学問・文化の側面から考えてみますと、第一の開国の思想は福澤諭吉『学問のすすめ』に結実したと解することができます。『学問のすすめ』が「天は天の上に人を造らず、人の下に人を造らず」と1790年アメリカの独立宣言を引用し、人間の尊厳と自由と平等を訴えました。それだけでなく、国民が政府を造ると、「国民の国民による国民のための政府」も主張しました。しかし、19世紀後半、20世紀前半の日本は、上からの、官の指導による近代化によらざるをえませんでした。福澤の志が実現するには時期尚早でした。

第二の日本の開国は太平洋戦争の敗戦です。敗戦による第二の開国の教育・学問・文化的意味で最も重要なものは日本国憲法と教育基本法、私立学校法などに明白に表れています。そこに見られる開国の意味は福澤のように個人としてでなく、国家として基本的人権を受け入れ、それに基づいて自由なデモクラシー社会を建設しようという国家的意志の表明でした。しかし、それらは

充分に実現されませんでした。第二の開国において、憲法にも教育基本法にも私立学校法にも、先進自由主義諸国のそれに比して、人間の自由と平等に関わる基本的人権に関しては、不十分にしか受容されていません。特に、教育・学問に直接関係する基本的人権はあまり考えられていなかったのではないかとと思われる程です。すなわち、国連の世界人権宣言はもとより、先進自由主義国家としては後発と言ってよい独伊の憲法にもうたわれている親の子供に対する教育の優先権、結社の自由に基づく私学の設立権という個人・中間社会・国家という思想構造は見られません。

今日は第三の開国の時代です。第三の開国の教育・学問・文化的問題は、教育・文化・学問の世界だけでなく我が国の個人と社会の関係、社会と国家の関係そのものの構造に衝撃を与えています。そして改めて我が国の第一開国に立ち返って、我が国の教育・学問・文化のコンセプトと構造を問い、第二の開国で果たさなかった社会と国家の構造改革を求めているように思います。

具体的に、何を申し上げたいかを提示させていただきたいと思います。

個人と国家(地方や国の政府)の中間にある法人、学校、企業などが行っている事業は(地方や国の政府は差し控える。国立、国営、県立、県営の施設、設備、企業、団体は最小限にとどめる。企画していることが同じであれば、中間にある民間の法人、企業、学校に譲る、政府が企画していたことに付けていた予算のい

くらかを補助金としてそれらの民間団体に交付する。

そのようにすると下からの自由な発意をいかせるし、(地方・中央)政府も採算のとれない仕事によって赤字を増やすことは少なくなるでしょう。そして社会も活性化するでしょう。この点で約150年前J.S.ミルは政府(地方や国の政府)の規制(干渉)に反対する三つの理由を挙げていることを思い出します。

第一の理由、それは原則的、一般的な理由です。政府がしなければならないことは、例外は別にして政府によってなされるよりも個人もしくはその仕事に利害関係をもっている人々によってなされるのが適している。第二の理由、個人よりも政府の人間が巧みに処理できる場合が多いにしても個人の能力を強化し、個人に問題を精通させたり、団体によって経営させる方が多様性を生み出す。例、政府が国民を一律に教育することは国民を鑄型に入れることになる。親の教育権が大部分政府に委ねられていて行使できなくなっている。親の教育権が一般的に承認されていない。第三の理由、政府は既に行っている機能に新たな機能を付け加える度に、勢力を拡大する(大きくなる)政府の規制・干渉を制限する最大の理由は不必要に政府の権力を増大させず、小さな政府を目指すことです。

今日本で行われている構造改革の実体は解かりませんが、改革の思想は上記と通じるものがあるように思われます。

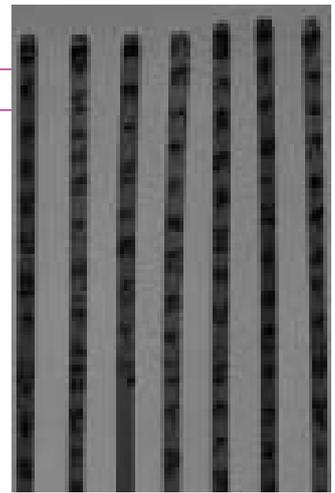
## 大学院より

# Graduate School info.

### 文学研究科 アジア文化史専攻で公開研究会

古代の中国や日本では、木製・竹製の長い札(木簡・竹簡)や絹(帛書)が主な書写の材料でした。近年、その実物が地下から大量に出土して、古代史研究の新資料として話題を呼んでいます(写真は「郭店楚墓竹簡」の一部)。アジア文化史専攻ではこの動向に応じて、「簡帛の世界 中国古代文字資料の発現」と題した公開研究会を昨年7月16日に土樋キャンパスで開催しました。中国・武漢大学の

陳偉教授の基調講演「戦国楚簡と楚史楚文化研究」に引き続き、早稲田大学の工藤元男教授と愛媛大学の藤田勝久教授に、本研究科アジア文化史専攻の熊谷公男教授と佐川正敏教授を加えた、中国古代出土文字資料研究の回顧と展望をめぐる座談会(司会は専攻の谷口満教授)という内容で進められましたが、座談会は3時間にも及び、聴衆は白熱した議論に熱心に聞き入っていました。



「郭店楚墓竹簡」の一部

### 経済学研究科 修士論文の一部が国際学術出版物に

2001年7月、オックスフォード大学出版会から上梓された『Evolution of the World Economy: Precious Metals & Industries』(edited by John Mcguire Patrick Bertola & Peter Reeves)の第2部『The Role of Gold Standard: Financial & Monetary in the Capitalist World Economy Reform in the Meiji Period. Some Cross-national Comparisons 1880 - 1940s』(edited by Simon James Paisley)に、本学に提出した修士論文の一部を掲載しています。

1880 - 1940s 本学に提出した修士論文の一部を掲載しています。『Japan's Adoption of the Gold Standard: Financial & Monetary in the Capitalist World Economy Reform in the Meiji Period. Some Cross-national Comparisons 1880 - 1940s』(edited by Simon James Paisley)に、本学に提出した修士論文の一部を掲載しています。

国際金本位制の歴史の中での日本の位置付けを明らかにしたもののですが、松方正義文書などの史料を駆使したことで、英語圏において新進による貴重な業績として高い評価を与えられています。同氏の研究者としての国際的デビューに拍手を送りたいと思います。

### 法学研究科 来年度から租税法及び政治学の特殊講義を開講

進学説明会などでの要望に応じて、租税法特殊講義(各2単位)と政治学特殊講義(4単位)同演習(4単位)が新設され、来年度は、租税法特殊講義と政治学特殊講義が開講されます。担当するのは、それぞれの分野の第一人者である、北野弘久講師(日大)

名大教授・租税法)と阿部四郎講師(東北大教授・政治学)です。税理士、ジャーナリスト、教員などの志望者にとって朗報といえましょう。なお、本学内部からは、成田博教授(民法)、伊藤一義助教授(日本法制史)が新たに本研究科のスタッフに加わります。

また、来年度から、本学学部生を対象とする特別選考制度(毎年6月実施)の門がより広くなります。詳しくは、大学院事務室(TEL. 022-264-6365)まで

### 工学研究科 生涯現役の研究者 7歳の社会人へ博士(工学)の学位授与

本研究科では、小野田元氏(74歳)の提出した博士論文を審査し、10月29日に博士(工学)の学位記を授与いたしました。小野田氏は昭和21年9月東北帝国大学工学部電気工学科を卒業し、その後5年間同大学院で渡辺寧先生のもとで放電管

の研究を行い、社会に出てからは、主に金門製作所で電気技術者として各種部品や電子装置の開発や製造改良にリーダーとして従事し、紫綬褒章や紺綬褒章など多くの賞を受賞しています。同社の社長に就任してからも、大学院当時から

の研究テーマに関して、八戸工業大学の菅原真教授の指導で研究を進め、最近の10年間の研究成果を博士論文「直流ホロー陰極放電の電極構造に関する研究」として本学に提出されました。

### 人間情報学研究科 環境世界の総合的研究の充実を目指して

今日の社会は情報環境が量的に肥大するにつれて、質的な転換をも生み出して他の自然・社会環境にまで影響を与えるようになり、人々の生活そのものが情報のあり方に大きく規定されるようになってきました。しかし、このような大きな変化も

突発的なものではなく、日常生活の小さな動きが積み重なって構造的な変化へと進んだものと思われるので、情報行動の背後にある生活者の具体的生活構造の解明も不可欠になります。人間情報学研究科は生命情報とともに社会情報、行動情

報の研究を通して環境世界を総合的に追求することを目指しています。新年度より生命情報コア(「生命・情報コア」として改編され、情報科学の充実によって教育と研究の一層の発展が期待されます。

## 学部より

### 文学部

#### 英文学科カリキュラムの改正

英文学科では、平成14年度入学生よりカリキュラム(学科課程)が改正されることになりました。これによって、現行の昼夜開講カリキュラムが更に充実したものになることが期待されます。

目指すのは、1)高度なコミュニケーション能力の育成、2)このコミュニケーション能力を基本とした専門知識の構築、3)学生の多様な学習形態に対応し得る柔軟な履修システムの導入、4)現行カリキュラムの効率化の4つです。

これらの目的に応じて、次の4点が主要な改正点です。まず、高度なコミュニケーション能力を育成するために、現行専門科目第1類(英語基礎科目)に専門教育科目第2類の英語コミュニケーション論系を併合し、英語コミュニケーション

系としました。基礎科目として「英語学習法」を導入し、あわせて新第2類に基本的論理構築のための科目として「基礎演習」を設けました。第二に、英語能力に裏付けられた専門知識の構築のために、講義と講読を併用したシステムを導入しました。読む力は聞き理解するコミュニケーション能力に通じます。第三に、ほぼすべての専門科目を半期完結科目としました。既に、教養基礎科目が半期完結となっておりますが、これを専門科目にまで拡大しました。最後に、系と科目の統廃合を通し、一層の効率化を図りました。特に、夜間主は英語文化論系にふさわしい科目に再編成しました。

このように、英文学科では、すぐに役立つと同時に、恒常的に役に

立つコミュニケーション技術とコミュニケーションを豊かにする知識の獲得を図っており、これによって、どのような危機に直面しようと、自立した人間として立ち向かえる人間の育成に励んでおります。

輝く教育・研究 文学部助教授 阿部 潤

#### 言語の自然科学的研究

我々人間は、一体どのような言語能力を備え、また、どのようにしてこの能力を身に付けるようになるのでしょうか。これらの問いを引き下げて、ノーム・チョムスキーは20世紀中頃、言語学に新たなパラダイムをもたらしました。生成文法理論と呼ばれる彼の理論は、自然科学の手法にのっとり、赤ん坊に生得的に備わっていると仮定される普遍文法の解明を目指しています。この理論のもと、日英語の統語現象の研究に取り組んでいます。

### 経済学部

#### ドイツから交換留学生を迎えて

昨年9月に、経済学部ではドイツの協定校であるヴィースバーデン大学から4人の交換留学生を迎えました。本学に在学中、彼らは、「日本研究秋期講座」において勉強に励んでいます。経済学部では、彼らのために英語で3つの講座を開講しています。その講座では日本の経済発展、貿易及び今日の日本経済と企業の現状、直面している問題と今後の変化等について、経済と経営の面から勉強しています。彼らは、机上の論理のみにとどまらず、日本の企業に対する理解を深めるため、実際に日本の企業(SONY・セルコホーム)や経済産業省を訪問するなど、精力的に活動しました。

また、大学側としても、在学中、経済学や日本語以外にもさまざまな事柄に興味を持ち、日本に対する理

解を深めてもらいたいと、9月から3カ月間の短い滞在ではありますが、日本の文化・文学・歴史などを身近に感じてもらうため、京都・奈良・広島など、国内旅行の機会を設け、教室外でも日本を身近に感じてもらうようプログラムを組んでいます。

さらに、より多くの学生と親しみ、さまざまな環境で日本の生活を楽しんでもらえるよう、今年初めて、泉と土樋、両方のキャンパスで講義を開講して、交換留学生たちにも好評でした。

講座終了後、日本でのインターシップを希望する学生や、日本での就職を希望する学生も出ており、経済学部としても、今後もより有意義な講座作りを目指したいと考えています。

輝く教育・研究 経済学部助教授 山岡隆夫

#### 現代の消費と流通

私たちの歴史を振り返れば、ヒトは生命生活を再生産するために生産と消費を繰り返してきました。一般に流通とは、生産者から消費者への商品の交換・売買に関わるすべての過程を指していますが、流通は、それぞれの経済社会的環境に応じて、その社会がもつ「アウラ(ここでは雰囲気とも考えておきましょう)」によって刻印されています。

さて、私たちが生活している日本のような高度に発達した社会を「消費社会」と呼ぶことがあります。ここでは消費に大きな価値をおく社会といった意味ですが、そのような社会が発する「アウラ」の中で、流通はどのような刻印を受けているのでしょうか。現代流通の有り様を考えながら、私たちの社会に対する基本的視座を獲得したいと思っています。

## 法学部

### 世界と社会の平和と安全のために「平和学」「少年法」の開講

法学部は、2002年度に、時代の要請に応えて最新のコンテンツを提供する「専門特殊講義」を、「平和学」と「少年法」という内容で開きます。

「平和学」は、国家間・国内の紛争を防止・解決することを目的として発達してきた新しい学問です。東西冷戦が終わった現在の世界においては、冷戦の時期にはある程度抑制されていたさまざまな種類の紛争が次々と噴出してきています。平和と安全を望む「気持ち」を表明するにとどまらず、このような時代状況を把握・分析し、紛争の原因や平和を作り出す具体的な「手段」についてまでも考察するのが、「平和学」です。

他方、少年犯罪の動機が理解不能になったり、凶悪になってきたと言われており、その背景として、「少年」という存在が大きく変化したことが指摘されています。この現象に対

応して、日本社会の安全性を維持・回復するためには「少年」を法律上どのように扱うのが適切であるかを考察する学問として、「少年法」という分野があります。この学問分野は、法律の解釈にとどまらず、「少年」を取り巻く社会環境にまで及ぶ考察を行う点で、社会から大きく注目されているのです。

このように大きな重要性をもつ平和学「少年法」は、現在のところ、恒常的に置かれる独立した科目ではなく、年度ごとに内容を検討することになっている「専門特殊講義」の、2002年度版としての開講です。しかし、私たちとしては、事情が許す限り、少なくとも2年～3年に一度は「平和学」「少年法」を開きたいと考えています。これらのほかにも、「専門特殊講義」には、時代の要請に正面から応えるコンテンツを提供して行くつもりです。

### 輝く教育・研究 法学部教授 田中輝和

#### 血痕鑑定と刑事裁判

血痕鑑定などの科学鑑定が直接間接、えん罪の証拠とされている事例が少なくありません。東北三大再審無罪事件(弘前、青森、松山)の場合もそうです。なぜこのようなことが起こるのでしょうか、どのような対策が必要なのでしょう。前記三事件を素材として、法医学研究者有志のご協力もいただき、ここ数年集中的に調査、検討してみました。その結論を一言でいえば、事実認定を行う者は血痕鑑定などの証拠価値の限界にもっと留意しなければならないということです。そのほかにも、この研究からは、法及び実務のあり方についていろいろな教訓が得られました。前記三事件の被害者及びえん罪犠牲者のこうむった苦難、犠牲を無駄にしないことにくらかも役立てば幸いです。

## 工学部

### 工学部に2つの最新計測システムを設置

高度化する研究に対し、その計測にもより高度な技術が要求されています。それらの研究を進めるために、新たな計測システムが2つ工学部に設置されました。

1つは「微粒子計測システム」です。この測定システムは、スプレーなどと呼ばれる液体噴霧の粒の大きさ(粒径)やその分布を測定するものであり、しかもその粒の飛散する方向や速度までも同時に計測できる最新の装置です。測定は4つに分けられたレーザー光線を利用するものであり、霧のような粒子に対してそれ自体を採取したり動きを止めたりすることなく測定できるようになっています。この装置の設置により、有害排気ガスの放出を抑えた効率のよい燃焼技術の研究が進展し、ま

ずますます重要になっている環境問題の改善への貢献も期待されます。

もう1つは、「高精細コンフォーカル顕微鏡装置」です。この装置は、光源としてレーザー光を用い、共焦点光学系システムの中で最も高画質な光学系で、今までのレーザー顕微鏡では大変困難であった破壊した断面等の観察などに最も有効な装置です。この装置には約1700 まで急速に試料を加熱することができる装置が取り付けられており、さまざまな材料の熔融状態での観察、更に高温状態で試料に力を加え変形させる機械も組み込まれています。この組み込まれた機械を使って、変形した試料のその場観察が可能となります。この装置の導入により、事故などで破壊した個所の詳細な

観察ができるようになり、私たちの安全な生活を守るための事故究明の手助けになるものと期待されます。

### 輝く教育・研究 工学部教授 木村 光昭

#### センサの研究

企業では、人と高価な装置を活用し、高精度のセンサを開発・商品化しているのに対し、私は、大学としての研究と教育の立場から、基本的な物理に立ち戻って、半導体の基礎技術を利用して実用につながる新規なマイクロセンサを開発することに主眼を置いて研究してきました。そして、新しい原理に基づく温度センサ、絶対湿度センサ、磁気センサ、赤外線センサ、振動・加速度光センサなどを発明し、実証し、これらを企業に移すとともに、これらのセンサを駆動するため超小型光電変換電源や超小型のトンネルトランジスタなども開発しています。

## COLUMN WELL

### 『地域と大学』 県民・市民シンポジウム が開催される

本学倉松学長がパネリストとして参加した『地域と大学』県民・市民シンポジウムが昨年10月30日、仙台市民会館を会場にNPO法人学都仙台ルネッサンス研究会の主催で開催されました。

基調講演では、西澤潤一岩手県立大学学長が、「仙台はアメリカとアジアの分岐点としての地理的な優位性を秘め、産学共同により、東北、仙台的な地域活性化のために大学が果たす役割と可能性が大きい」と述べました。

パネルディスカッションには、浅野史郎宮城県知事、阿部博之東北大学総長、一力一夫河北新報会長、本学後援会会長の村松巖商工会議所会頭らが参加し、それぞれの立場から学都仙台について考えを主張いたしました。

倉松学長は、「仙台圏大学による単位互換制度を進展させて、一般の市民にも活用を呼びかけ浸透させていきたい。そのためには、産官にサテライト授業の場を提供していただきたい」と提案いたしました。

地域発展のために示唆に富む多くの意見が交わされましたが、学都仙台を担う一大学として本学の使命も大きいことを改めて確認するシンポジウムとなりました。

## 学部より

### 教養学部

#### 総合研究のまとめに全員フル回転中

教養学部の特色の一つに、4年生必修の「総合研究」があります。学生たちは、十余のテーマのどれかに取り組み、複数の教員の指導を受けながら、卒業論文の形で研究成果をまとめなければなりません。今年度のテーマは、「地域と環境」ことばとコミュニケーション「社会変動とライフスタイル」等々です。それぞれのテーマを2~5人程度の教員チームが担当しており、人間科学と情報科学というように異なる分野の教員がチームを組んでいる場合もあります。学生は各自の興味関心に基づいて自由にテーマを選び、そのテーマを更に具体化した課題を自分なりに設定して研究を進めていくのです。課題の例としては「大学生と電話コミュニケーション」「男性の未婚化の背景」というようなものもあります。学生はそれぞれ自分の課題に沿って、教員チームの一人を主指導教員と

して選びますが、随時、チーム内の他の教員からもさまざまな形で指導助言を受けます。

こうして、総合研究では、自分の課題やテーマを多角的に捉える視点を養うことができます。他分野の教員からの思いがけない指摘に、自分の研究の展望が開けたり、弱みに気付いたりするのです。チームごとに行われる構想発表会や中間報告会等では、自分とは別の主指導教員のもとで勉強している学生たちの研究内容や方法から、いろいろな刺激を得ることもあります。

締め切りを間近に、目下、教養学部4年生は4年間の勉学の成果を注ぎ込んだ総まとめに取り組んでいます。自分で課題を見出し、自分でその解決方法を探り、多角的な視点から研究を進めていくという実体験は、生涯の宝となるでしょう。

### 輝く教育・研究 教養学部教授 佐藤 篤

#### 生命の情報処理機構

遺伝子は生命の設計図とよくいわれませんが、実際には複雑な情報処理が遺伝子DNAを舞台として行われています。私は遺伝子のスイッチのオンオフの過程に、その情報処理の秘密が隠されていると考え、培養細胞内でレポータ遺伝子が発現する過程を研究しています。そしてそれが、遺伝子のデジタル性とタンパクのアナログ性を組み合わせた、言わば会議と正のフィードバックを組み込んだ採決のシステムであることなどが分かってきました。



### 経済学部

昨年11月6日から12月4日までの期間、「新たなビジネスの創造」と題し、計6回の公開講座を開講しました。今日注目を集めているベンチャー・ビジネスについて、幅広い関心を持つ方々が、年齢を問わず集まっています。同様の講座は全国的に開講されていますが、東北の特性を生かした「人と社会に新しい可能性を開くビジネスの可能性を追求する」という目的のもと、個性的な内容になっています。

〔第1回：和田正春：新たなビジネスの出発点、第2回：佐藤邦廣：激しい環境変化の理解と経営者の主体的対応、第3回：和田正春：新しいビジネス その必要性と現実、第4回：和田正春：ビジネスチャンスを考える(1) 売のづくり編、第5回：和田正春：ビジネスチャンスを考える(2) サービス業編、第6回：和田正春：ビジネスプランを考える アイディアを形にする〕

### 教養学部

昨年10月11日から11月15日までの期間、「県民生活と現代の教養 日常生活に含まれる諸問題について考える」と題し、計6回の公開講座を開講しました。この講座は、大学の持つ人物、物的教育機能を地域社会に解放することにより、高齢化、国際化、情報化の発展する社会情勢の中にあって自己充実や生きがいの追求などに資することができる教育機会を提供し、地域住民の高度で多彩な学習要求に応えることを目的としています。

〔第1回：松澤茂：人工衛星から地球を診断する、第2回：塚本龍男：「計算」について考える、第3回：岩谷信：「以心伝心」の仕組み 日常会話の記号論考察、第4回：大江篤志：宮城県の過疎・高齢化と地域の伝統、第5回：斉藤周夫：いきもののしくみをさぐる 遺伝子をキーワードに、第6回：中川清和：コンピュータはどのように絵を描くのか〕

なお、工学部のみやぎ県民大学「大学開放講座」は、昨年第9回を迎え、充実した内容で実施されています。

## COLUMN WELL

みやぎ県民大学  
『大学開放講座』が  
経済学部と教養学部で  
新たに開催

## 国際交流センターより 国際性を養う真の異文化理解

国際交流協定校の一つであるイギリスのダラム大学からの交換留学生として、マーティン(カルマ)ガッチューソーさんが本学で勉学に励んでいます。彼から見た日本の社会、大学、学生について述べてもらいました。(カルマさんは日本語で書いてくれました)

私は3カ月前にこの大学へ来ました。その前は1年間ダラム大学で勉強していましたので、イギリスと日本の大学の違いを比較するには、良い立場にいると思います。そうは言っても、この3カ月で気付いたのは、どこの学生も大体同じ様な生活を送っているということです。皆は自分なりの夢や目的を持って、毎日幸せを追いかけしています。そこはやはり、ダラム大学にせよ、東北学院大学にせよ、ほとんど変わらないことだと思います。

ところがよく見ると、所々に著しい違いが表れています。別にダラムは大した大学だとか、イギリスの教育は一番だとか、決してそういうことを言いたい訳ではありませんが、こちらに

来てちょっとびっくりしてしまったのは、学生が授業の時、教室の前の方に座っていても普通に、つまり遠慮せずに寝ていることです。しかも、それを見ても先生が注意することはめったにありません。でも、それに対して、常にすごいなと思えるところもあります。それは、日本の学生たちのがんばり方です。特に部活動をしている人々を感動して見えています。もうちょっと、我々イギリス人にも日本人みたいな"がんばり"があったらと思ったりすることもあります。

それから、イギリスの大学にはない、いわば「先輩-後輩社会」に慣れるのには結構時間がかかりました。今までは、剣道部で長い時間を過ごしてきたのですが、剣道部では、さらに先輩-

後輩の付き合いを厳しくさせられたりしています。しかし、それに慣れてからは、例えば自分より年上の人や強い人の前で礼をすることは、とても大切なことだと思うようになりました。いろんな意味で、日本の大学に来て、大変良い教育を受けていると思います。

### 国際交流協定校

Ursinus College アーサイナス大学(アメリカ)  
Franklin and Marshall College フランクリンアンドマーシャル大学(アメリカ)  
Fachhochschule Wiesbaden ヴィースバーデン(ドイツ)  
Pyongyang University 平壤大学(韓国)  
Nankai University 南開大学(中国)  
University of Durham ダラム大学(イギリス)  
University of Ulster アルスター大学(イギリス)

問い合わせ先 国際交流センター事務局

TEL 022-264-6425/6404

E-mail: ICO@tsc. tohoku-gakuin. ac. jp

International info.

## 研究所・センターより

『沖縄の歴史と東北の歴史・文化』  
東北文化研究所

東北文化研究所では、研究所の研究活動の一環として毎年秋に公開学術講演会を開催しています。第14回にあたる今年度は、昨年11月2日(金)に沖縄県浦添市教育委員会の安里進先生をお迎えして、「琉球王国の出現」という題でお話をいただきました。

14世紀後半に成立した琉球王国は、その後明治政府によって併合されるまで500年にわたって存続して、独自の文化を形成してきました。私たちが沖縄へ行きますと、亜熱帯の気候に驚かされるだけでなく、食べ物やお墓など、さまざまな異文化体験をしますが、それは沖縄の人々が日本人になってからたかだか100年しかたっていないからなのだな、と安里先生のお話から再認識させられました。沖縄の人々が、日本国民であると同時に、独自の伝統文化を大切に日常生活を送っていることが、先生のお話からひしひしと伝わってきました。

東北も、沖縄と同じく、日本の「辺境」に位置しています。その点で、安里先生の講演は東北の歴史を研究していくうえでも、いろいろと参考になりました。それと同時に反省もさせられました。私たち東北人は、伝統文化を沖縄の人々のように大切にしてきたのでしょうか。「後進性」へのコンプレックスから、中央への同化を急ぐあまり、多くの伝統文化を捨ててきたのではないのでしょうか。

問い合わせ先 東北文化研究所  
TEL 022-264-6430

Institute for Research and Center info.

## 図書館より 東北学院図書館のこれから(その1)

今号と次号の「図書館より」は、大学の重要な機関の一つとしての図書館の現状と今後の展望に関する図書館長からの報告です。

大学図書館の本来の任務は、教育研究に必要な図書を集集・整理・収蔵し、その情報を効率よく学生や教員に提供して、図書の閲覧・利用など、教育研究に貢献することにあります。従来は自分の大学の学生や教員を対象に業務を行っていたらそれで済みましたが、近年は大学間の相互の便宜供与は当然として、公共図書館との相互利用など、図書館間の相互補完的機能も次第に実現に移されつつあり、大学図書館の利用者は学外にも拡大する傾向にあります。

とりわけ近年、大学の改革が急速に進められつつあり、社会における大学の役割も大きく変化しつつあります。地方の私立大学である本学は、今後ますます地域社会に対する依存度が大きくなると思われます。このためには本学が地域社会に対し、可能な限り貢献することを通して、その支持と支援を得ることが不可欠です。地域社会が本学を必要としないならば、本学の発展はもとより存続自体も大いに危惧されるからです。一般に大学が社会に貢献し得る方法は、まず蓄積してきた知的情報をさまざまな形で社会に還元していくことであり、図書館図書の公開もその一部です。また、キャンパスや施設設備の公開は、近年特に要望されているところです。本学図書館もこのような流れの中で、学内の・本来の任務に加えて、社会に対して貢献し得る方法を考案し、実施していく必要があります。

第一に、蓄積してきた図書を学外にも提供することが考えられます。現在でも、同窓生や学

外研究者にも図書館及び図書の利用の途は開いてきました。しかし、蔵書目録を作っていないため、来学してカードを検索する必要がありました。近年の「電子図書館化」の流れの中で、図書に関する情報の提供は「OPAC(東北学院大学図書館資料検索システム)」の利用によって、学内のみならず広く学外からも、インターネットを通して検索することが可能となりました。本学図書館も収蔵図書のすべてを現在急いで遡及入力中であり、あと4年ほどで完了する予定です。これにより今後、学外からの利用も増大していくと考えられます。なお、このOPAC入力作業は、いずれは図書館以外の本学各研究所や資料室所蔵図書についても実施する必要があるでしょう。

第二に、1世紀以上にわたって蓄積してきた蔵書の中から、貴重書の公開など、積極的かつ啓蒙的な活動を展開することがあります。平成12年10月に実施した「古刊洋書」の展示会が最初の例です。もちろん、展示した貴重書に関する詳細な解説資料の作成と配布など、次回以降に実現しなければならぬ多くの課題があります。しかし、今後、隔年実施の方針が既に決まっております。場合によっては、本学教員の講演や解説などとリンクして、より内容のある展示会にしていきたいと考えています。

(6月20日発行の第10号に続く)

問い合わせ先 図書館事務局  
TEL 022-264-6491

Library info.



## 就職部より

### 自分の将来を真剣に考えるとき

就職活動の早期化傾向はますます強まっています。しかも、学生を取り巻く就職環境も厳しさを増しています。学生の就職支援を担当する就職部の各キャンパス担当者は、本年度4年生の就職状況を総括し、企業側の採用担当者の状況を伺い、3年生への就職支援スケジュールを実施しています。12月には、業界研究講座を5日間、1日5コマを編成し、業界を代表する25社の採用担当者を招いて講演を願い、業界の現状と展望、求める人材像、採用情報等を伺っています。言うまでもなく、業界研究とは業界に関連する企業情報やトピックを広く浅く収集し、理解を深めることであり、大事なことです。

年明け2月早々からは個別企業の企業研究講座を開催し、3月からの

行動に移せるよう準備体制を整えつつあります。このように、個々人の具体的な就職活動をスタートすることを意識させています。もちろん、学生の就職意識には個人差があります。準備の整わない学生は、周りの動き、情報に惑わされないように、自己のペースでの意識の高まりが求められます。とかく焦燥感が先行しがちですが、最も重要なことは「自分の将来を真剣に考える」ことなのです。

成功する就職活動のスタートラインは「私は何が得意で、何がしたいのか」をはっきりさせることです。身近な存在である就職部の積極的な活用を望んでいます。

問い合わせ先 就職課  
TEL. 022-264-6481

### 東北学院大学

土樋キャンパス  
大学院：文学研究科、経済学研究科、法学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部(各3・4年)  
文学部二部、経済学部二部  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL. 022-264-6421 FAX. 022-264-3030

多賀城キャンパス  
大学院：工学研究科  
学部：工学部  
〒985-8537 宮城県多賀城市中央一丁目13番1号  
TEL. 022-368-1116 FAX. 022-368-7070

泉キャンパス  
大学院：人間情報学研究科  
学部：文学部・経済学部・法学部(各1・2年)  
教養学部  
〒981-3193 仙台市泉区天神沢二丁目1番1号  
TEL. 022-375-1121 FAX. 022-375-4040

### 東北学院中学・高等学校

〒980-0811 仙台市青葉区一番町一丁目9番1号  
TEL. 022-227-1221(代) FAX. 022-227-6302

### 東北学院榴ヶ岡高等学校

〒981-3105 仙台市泉区天神沢二丁目2番1号  
TEL. 022-372-6611(代) FAX. 022-375-6966

### 東北学院幼稚園

〒985-0862 宮城県多賀城市高崎三丁目7番7号  
TEL. 022-368-8600(代) FAX. 022-309-2655

## 入試センターより

### 一般入試(前期日程)の志願状況

平成14年度入学者選抜のための一般入試(前期日程)が2月1日から4日まで、仙台、多賀城の本学キャンパスのほか、全国7ヶ所(札幌、青森、盛岡、秋田、山形、郡山、東京)の試験会場で行われました。

志願者は全学で8,842名(昨年は9,235名)、募集定員に対する倍率は7.4倍、各学部の志願者数と倍率は次のとおりです。なお、3月7日(木)には「後期日程試験」が行われます。

文学部	1,727名6.1倍)
経済学部	3,650名8.0倍)
法学部	1,305名7.4倍)
工学部	1,100名6.0倍)
教養学部	1,060名10.4倍)

問い合わせ先 入試課  
TEL. 022-264-6455

### 教育研究振興資金募集のお願い

学校法人東北学院では、平成11年8月1日から平成16年3月31日の期間を定めて、次の事業の完遂に向けて、教育研究振興資金を募集しております。広く皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

#### 【募金目標額10億円】

- 1 東北学院英奨学基金の増額
- 2 東北学院高等学校校舎(家庭科実習室等)整備
- 3 東北学院大学教育・管理棟建設(土樋キャンパス)

詳しくは、東北学院法人本部募金事務室までお問い合わせください。  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋1-3-1 TEL. 022-264-6467 / FAX. 022-264-6458



ウーラノス

東北学院大学 広報誌 vol.9

#### 広報誌編集委員会

委員長	総務担当副学長	関根 正行
副委員長	総務部長	飯土井公洋
編集長	宗教部長	佐々木哲夫
委員	文学部教授	遠藤 健一
	経済学部教授	小笠原 裕
	法学部教授	斎藤 誠
	工学部教授	星宮 務
	教養学部教授	片瀬 一男
	総務部次長	高橋 征士
	総務部調査企画課長	石井 勝雄
	総務部総務課長補佐	桔梗 元子
	総務部調査企画課係長	伊藤 寿隆
	総務部調査企画課	石上 貴繁

東北学院大学広報誌 (ウーラノス) に関するご意見・ご質問をお寄せください。今後とも皆様のご期待に沿えますよう、編集いたします。なお発行日は、6月・10月・2月となっております。

発行日 平成14(2002)年2月20日  
編集 東北学院大学 広報誌編集委員会  
発行 東北学院大学  
〒980-8511  
仙台市青葉区土樋一丁目3番1号  
TEL. 022-264-6424 FAX. 022-264-3030  
URL <http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/>  
E-mail [c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp](mailto:c.kikaku@staff.tohoku-gakuin.ac.jp)  
印刷 (株)エイエイピー

